

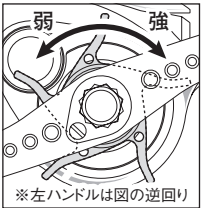
■メカニカルブレーキノブ

メカニカルブレーキは、スプールの回転にブレーキをかけるものです。右に回すとスプールのフリー回転にブレーキがかかり、左に回していくと、そのブレーキは弱くなります。一般的な調整方法として、スプールの左右のがたつきがなくなるところから、少しだけメカニカルブレーキを緩めた状態でお使いください。緩めすぎも、締めすぎもリール本来の性能を阻害する場合があります。風の強い時のキャスティング、スキッピングなど特定の状況においては適度にメカニカルブレーキを締めた方がキャスティングしやすくなります。



■スタードラグ

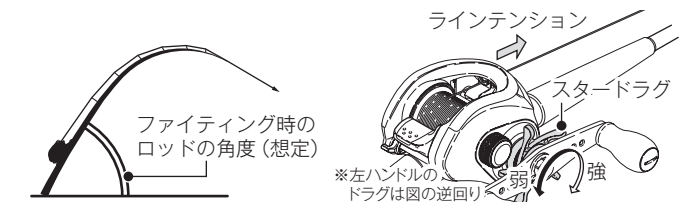
ハンドル側から見て、時計回りに（レフトハンドルは反時計回りに）回すことでドラグが締まります。



■ドラグの調整方法

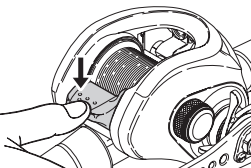
ドラグとは、その強弱を調整することにより、急激な魚の引きに対し、スプールが逆転して糸切れ（ラインブレイク）を防ぐ機構です。又、その逆転時に発生する抵抗値をドラグ力と言います。

1. 実際に使用される竿にリールをセットし糸をガイドに通してください。
2. クラッチを“ON”の状態にして、想定されるファイティング時のロッドの角度を保って、図のように糸を引き出しながらスタードラグの締め付けを調整してください。その際、出来るだけ実際の状況に近づける為、対象とする魚の泳ぐスピードを想定して糸を引き出してください。



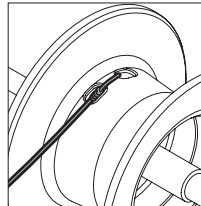
■クラッチ操作方法

親指でクラッチレバーを下に押すとクラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。カチッと音がするまで確実にクラッチレバーを押してクラッチを切ってください。



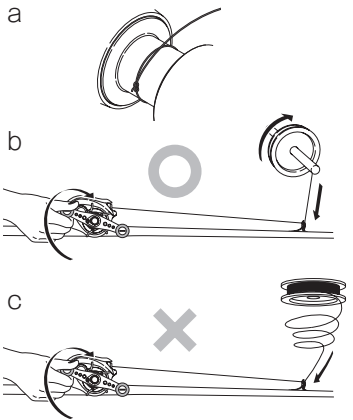
■スプールへの糸止め方法

スプールの穴に糸を結び、結びコブを穴に入れ込んでください。
※テープを貼り付けて固定しても大きな不具合にはなりませんが、回転性能を最大限に引き出すために推奨いたしません。



■糸の巻き方

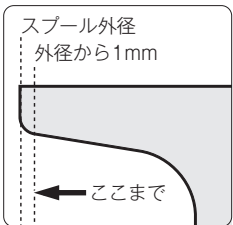
1. ドラグを強く締め込みます。
2. リールを竿にセットします。
3. 元ガイドから糸を通してスプールに結びます。(図 a)
4. 糸が巻かれているボビンに、割り箸や鉛筆等の軸になるものを通します。
5. そのボビンと軸を誰かに持ってもらい、適度なテンションをかけて、ボビンを回転させながら糸を巻き取るようにして下さい。(図 b) 図 c のようにならないようご注意ください。



尚、PEラインを巻かれる時は、事前にPEラインを十分に湿らせてください。巻き上げ時に発生する熱（抵抗熱）によってPEラインが劣化するのを防ぐためです。

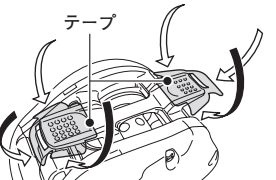
●推奨糸巻量

糸巻量はスプール外径から1mmの位置まで巻くことをおすすめします。



■リールフットの保護

金属製リールシート、またはリールとの干渉が大きいリールシートに装着する場合、テープをリールフットに巻いてください。リールシートとの干渉を和らげ、耐食性効果があります。



■本体B組の取り外し方

※ライトハンドルのイラストで説明しています。

- ①本体B組を反時計回りに、90度回転させ、引き出すと取り外せます。

この際、本体B組後方の突起がリール上部に位置します。

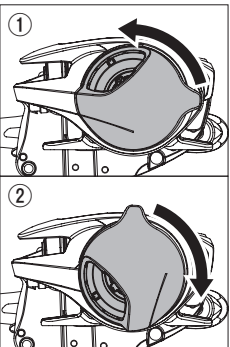
- ②本体B組を組付ける際は、逆の手順となります。本体B組後方の突起を上部にしてフレームに嵌め込み、時計回りに、止まるまで回転させます。

※本体B組のガタツキをおさえるためフリクションがかかる構造になっていますので、取り外しが少し重いものもあります。

※本体B組を外した状態で、開口部を下に向けると、スプールが脱落し、変形する恐れがありますので、ご注意ください。

※メカニカルブレーキを締めた状態で本体B組を開けると、スプールが本体B組側に寄せられているため、構造上本体B組が閉じられなくなります。本体B組を閉じる際は、必ずメカニカルブレーキノブを緩めてください。

※本体B組は本体から切り離されますので、落下による破損や紛失にご注意願います。



■DC ブレーキ調整方法

- ①モードダイヤルを使用するラインの種類に合わせます。

Fはフロロ、Nはナイロン、PはPEを意味しています。

※フロロライン使用時での追い風環境や、ラインを少なめに巻かれる場合等、N(P)モードもお試しください。また、PEライン使用時にブレーキ力が弱いと感じられる場合は、Fモードもお試しください。

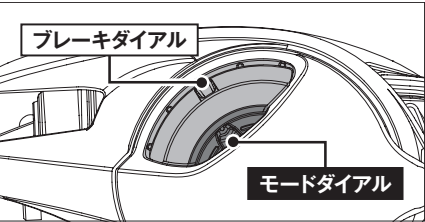
ブレーキダイヤルと各モード設定を組み合わせることで、より快適なセッティングが見つかる可能性があります。

- ②ブレーキダイヤルを、調整します。

MINからMAXへとブレーキ力が5段階で強くなります。

ダイヤル4・5では、強風化などルアーが失速しやすい条件でバックラッシュをより起こりにくくするため、キャスト後半に補助ブレーキ機能を搭載しております。補助ブレーキ発動時にはDC音が高音になります。

なお、失速度合いが小さい場合には補助ブレーキは発動しません。



■キャスティング方法

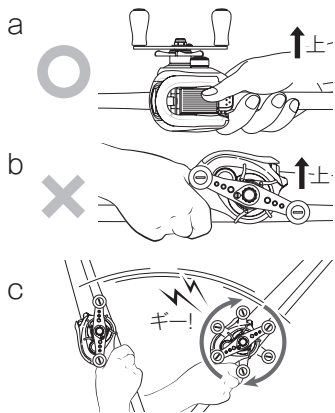
●正しい握り方

ハンドルを上向き（もしくは下向き）にして握ります。(図 a)

下記の握り方でキャストされますと、クラッチ返りが起こりやすくなりますのでお避けください。

ハンドルを横向きにしてしまうと…
(図 b)

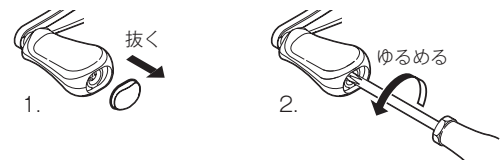
キャストの衝撃でハンドルが回転しクラッチが返ってしまいます。
(図 c)



※キャスト時のクラッチ返りは、車でいえばクラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギヤの破損の恐れもあります。絶対にお避けください。
※キャスティング中にハンドルでクラッチを返さないでください。ギアの破損につながる恐れがあります。ルアーが着水してからクラッチを返してください。
※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い（大きい）ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

■ハンドルノブの取り外し方（バドル型）

1. キャップを取り外します。
2. ノブ内部のネジをゆるめて外します。



お手入れ方法

特に海水・汽水域でリールをご使用された後は、錆や塩分の固着によるトラブルを防止するためにも、以下の要領で釣行後にメンテナンスを行うことをお勧めします。

① 必ず竿から外してください。

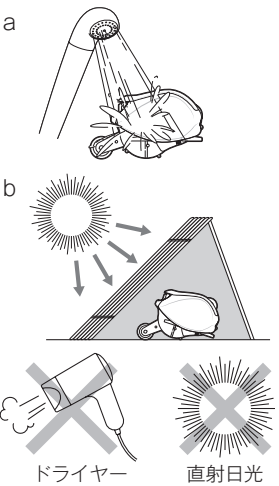
使用後は、必ず竿から取り外して、真水で水洗いしてから保管ください。例え、水洗いされても、竿とセットしたまま放置されますと、リールのフット部とリールシートのフード部に水が溜まり、腐蝕する恐れがあります。

② 水洗いしてください。

ドラグをしめ込んでから、ハンドルやクラッチ等の作動部を動かしながら、シャワー等の真水で、1～2分間水洗いしてください。(図 a)

スプールを取り外し、スプールのみを水洗いしていただくとともに効果があります。スプールに水分や汚れが残ったままリールに組むと、スプールフリーが悪くなりますので、必ずふき取ってから組み込んでください。

※温水はグリスを洗い流す可能性があるのでお避けください。また、同様の理由でリール本体を水没させないでください。



③ 乾燥させてください。

ハンドルやクラッチ等の作動部を動かしてよく水を切った後、ドラグをゆるめ、直射日光を避けて陰干ししてください。(図 b)
※直射日光、ドライヤー等は内部のムレを引き起こします。
※隙間に残った塩分や錆による固着を防ぐため、乾燥中は1日に1度はハンドルやクラッチ等、作動部を動かしてください。

④ 注油してください。

グリス、オイルは弊社純正品（下記参照）をお使いください。そうでない場合の品質は保証いたしかねます。ご注意ください。

SP-003H（メンテスプレーセット） SP-013A（オイルスプレー） SP-023A（グリススプレー） SP-015L（バルスリールオイルスプレー） ※最寄りの販売店にてお買い求めください。

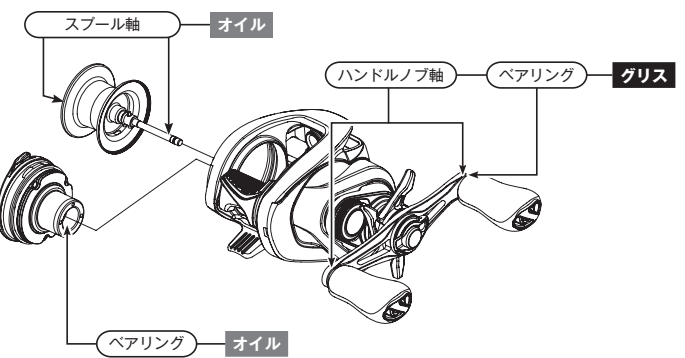
《注油上のご注意》

リールオイル、グリスがハンドルノブに付着したまま長期間放置すると、ハンドルノブが膨潤する場合がありますので、付着した場合はウエスやティッシュペーパー等で必ずふき取ってください。

シマノ以外のオイルは使用しないでください。オイルはごく少量で充分です。特にベアリング部分は、あふれるようであればティッシュペーパー等で吸い取っておいてください。ドラグ部にはオイルは注さないでください。

※イラストは実際の製品と異なる場合がございます。

●注油箇所



⑤ 保管上のご注意

保管の際は必ず竿から取り外してください。

また、なるべく乾燥した冷暗所に保管してください。濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間（自動車のトランク、ダッシュボード等）に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。

●当QRコードからリールのメンテナンス動画ページにアクセスできます。



■ライセンス情報

弊社製品のソフトウェアにはオープンソースソフトウェアのプログラム（OSS）が含まれています。以下からご覧いただけます。
https://fish.shimano.com/ja-JP/campaign_redirect/qrcode/catalog/oss.html

Metanium DC

71

71HG

71XG